



波 濤

<https://hatoh.net/>

第 69 号

発 行 放送大学神奈川同窓会

編集委員会

責任者 金田 保男

発行日 2025年7月25日

会員数 534名(2025年4月1日現在)

大学で学ぶということ

神奈川学習センター所長
大谷英雄



大学では幅広い学問分野が提供され、知識の探求と教育が行われています。大学は学問をすることだという言い方ができるかも知れません。

高校までの勉強では、既存の知識を学ぶことが重視され、“学ぶ”は“真似ぶ”からきていると言われるように、教師の知識を上手に真似することが評価されます。しかし、大学の学問では、既存の知識を真似るよりも、新しい知識を得ることが重視されます。真似が上手いよりも、自分なりの考え方ができることが評価されます。学問では、知識をただ受け入れるのではなく、批判的に考え、疑問を持ち、検証することが重視されます。これにより、より深い理解と新しい発見が生まれます。

面接授業のアンケートで先生が間違っただけを教えていたという意見を見かけ、違和感を覚えたことがあります。間違っただけを教えて良いわけではありませんが、大学では学説が分かれるような話題に触れる場合もあり、すでに知っている説とは違うことを教えられることもあると思います。その際には、自分なりの考えを客観的かつ論理的に追求していくことが大切です。それが学問するということです。

日本の古代史には邪馬台国論争というものがあります。邪馬台国論争は、邪馬台国の所在地をめぐる歴史学・考古学の議論で、主に「畿内説」と「九州説」に分かれています。東大の白鳥庫吉は、明治43年に邪馬台国が九州にあったとする「九州説」を提唱しました。彼は『魏志』

倭人伝の記述を基に、邪馬台国が北九州に位置していたと主張しました。一方、京大の内藤湖南は、同時期に邪馬台国が畿内（現在の奈良県周辺）にあったとする「畿内説」を提唱しました。彼も『魏志』倭人伝の記述に基づいて、違う説を立てたのです。

このように、東大と京大はそれぞれ異なる立場を取り、明治以来激しい論争を繰り広げました。現在でも、決着がついておらず、学術的な議論が続いています。このように同じ資料に基づいても違う解釈にたどり着くこともあるのです。

これを勉強という立場から見ると、どちらかが正しく、どちらかは誤りで価値はないということになります。しかし、どちらかが正しいと判明したとしても、もう一方も学問的価値が失われることはないと思います。

繰り返しになりますが、大学で学ぶことと高校までで学ぶことには、大きな違いがあります。まず、高校までは幅広い基礎知識を習得することが学びの目的ですが、大学では特定の専門分野を深く掘り下げ、専門性を高めつつ、自分で正しい知識を得る方法を身につけることを目的としています。したがって、学ぶ内容は、高校までは教科書に基づいた体系的な知識そのものですが、大学では講義、ゼミ、実験、実習などを通じて、より専門的で応用的な知識や技術を習得するとともにある目的が設定された場合にその目的を達成する方法を考えることを学びます。卒業研究が一番大学らしい科目ということができます。

同窓生の皆さんはもう直接誰かから何かを教わる機会は少なくなっていると思いますが、大学を卒業したということは学問をする基礎はできているということです。何か自分の研究したいことを見つけて学問を続けていただけることに期待しています。

第 36 回通常総会報告

5 月 24 日(土)、神奈川同窓会の第 36 回通常総会が開催されました。第 3 講義室での会場と Zoom によるオンラインのハイブリッドでの開催となりました。コロナ禍以降日常を取り戻しつつあり、対面で開催することができました。

今年度も神奈川同窓会顧問の大谷英雄神奈川学習センター所長のご出席とご挨拶をいただきました。そして総会終了後には、第 77 回弘明寺サロン講演会を開催しました。

総会の結果は次のとおりです。

*日時: 5 月 24 日(土) 13 時～15 時 10 分

*出席者数

会場と Zoom での出席者	39 名
議決権行使書提出者	242 名
合計	281 名

*議案の賛否

第 1 号議案	賛成多数で承認
第 2 号議案	〃
第 3 号議案	〃
第 4 号議案	〃
第 5 号議案	〃
第 6 号議案	〃

*結果

各議案は賛成多数で全て承認されました。

今年度の総会においては、事前に返信していただく出欠はがきの表面を利用した「同窓会活動に係るアンケート」を実施しました。会員の約四割弱の皆さまから大変貴重なご意見をいただきました。詳細は省略させていただきますが、今後の諸活動に反映して参ります。

総会の議案審議に際し多数の賛成でご承認いただきありがとうございます。決定いたしました計画にもとづき一年間活動を展開して参ります。会員の皆様のご協力をお願いし通常総会のご報告とさせていただきます。(木下義則)



2024 年度

学位記授与式・祝賀パーティ報告

2024 年度の学位記授与式は 2025 年 3 月 22 日(土)、昨年と同じベルサール高田馬場で挙行されました。式典は 11 時から始まり国歌演奏、来賓・出席者の紹介、卒業証書・学位記授与と進みました。卒業・修了者数は教養学部 6301 名、大学院修士課程 202 名、大学院博士後期課程 4 名の合計 6507 名でした。

岩永学長の式辞のあと来賓祝辞、卒業生・修了生謝辞と続き、そのあと各種表彰式があり、学位記授与式は学歌演奏をもって 12 時に終了しました。

このあとの祝賀パーティはホテルニューオータニで行われるため、参加者は電車又はバスで移動しました。今回バス移動は有料(事前申込み)となったのでバスの台数は少なくなりましたが、バス乗り場までは同窓会実行委員の誘導班が歩道を横断する車の安全確認を行い、参加者を誘導しました。またバスには添乗班の担当が乗車し、ホテルに到着してからの予定などについて説明しました。

祝賀パーティは午後 2 時から始まり、学歌斉唱、岩永学長・北野同窓会連合会副会長の主催者挨拶が行われました。そのあと退任される先生方へ同窓会から記念品贈呈が行われ、続いて高橋理事長の挨拶と乾杯のご発声により食事と歓談が始まりました。



アトラクションの演奏を聴きながらテーブルでは楽しく語り合い、今回も用意された銘酒コーナーのお酒を楽しまれていました。後半には 3 か所で記念の集合写真撮影があり、放送大学同窓会連合会のホームページに掲載されます。

そして午後 4 時には終宴となり、会場の出口で紅白饅頭を持ち帰っていただきました。(佐藤 敬)



神奈川学習センターの皆様

卒業生の言葉

皆様に感謝です

佐野敦子



卒業！それはとても嬉しい。信じられない。夢のよう。そう思っています。

私は、仕事の関係で学びが必要になりましたが、学業から数十年離れている事や仕事と学び、健康管理に不安がありました。そんな時放送大学から職場に学びの案内状が届きました。入学相談会に参加したら、様々な関係者の皆様から学習内容を納得いくまで説明いただき、背中を押してくださいました。

選科履修生として入学し、パソコンが苦手な私はオンライン授業にドキドキする中、大学から「学びはいかがですか？」と電話が入りました。「なんて温かい学校なのだろう」「こんな大学あるんだ」と感激し、大きな力をいただきました。単位が取れた時はとても嬉しかったです。私の人生初免許は放送大学でした。今後を考えた時、124 単位は果てしなく遠く悩みましたが、入学資格は学ぶ意欲で興味のある科目を取ることでも全科履修生として最長 10 年間学ぶ事が出来ると知り、学び直しとして学び続ける事にしました。印刷教材や放送授業はわからなさ過ぎて泣きたくなることも度々で、教授がラジオやテレビで一所懸命教えてくださっているにもかかわらず、理解できずに申し訳なくガッカリすることも多かったです。そのような状態でしたので、私はたくさんの方々に支えられて卒業を迎える事が出来ました。

丁寧に解説してくださった面接授業の講師の方々。学ぶ環境を整えてくださった学習センターの方々。助けてくださったKサポートの方々。妹・甥・姪。そして何より両親には、何もできないうえに自分優先でごめんなさい。学ぶ時間をくれてありがとう。おかげで卒業する事が出来ました。

今後は今までの学びを活かして少しでも何かの役に立ちたい。地域に仕事に家族に少しでも恩返ししたいです。同窓会入会時、金田会長より心温まるお言葉をいただきました。これからも生涯学習を続けていきますのでこちらこそ、このような私ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

卒業生の言葉

学びの時間を振り返ってみて

岡野由紀子



放送大学へ入学したきっかけは、老後の生き方についてぼんやりと模索している中、学習センターの近くに引っ越したことでした。放送大学で学ぶことによって「視野が広がり将来の展望が見えてくるの

では」と期待を胸に科目履修生として入学しました。

古典の授業では古人に思いを馳せ人間の情感の普遍性を感じ、また、何となく理解しているつもりであった歴史や社会情勢を学び直すことで、ニュース報道を以前よりも多面的に考えられるようになりました。

試験前は勉強時間をやりくりするのに苦労しましたが、知識の広がりを実感できると学習を進めることが楽しみとなり全科履修生に変更しました。面接授業は、講義はもとより年齢の幅のある方達とのグループ討議や発表を通じて多様な意見を直接伺える事ができて、知識と見聞を深められる場でありました。

放送大学で学習した「問題解決の進め方」「持続可能な社会と生活」をヒントに職場で業務改善の策定方法を提起しました。業務を続ける限り改善対策を常に問われるが故、新しい意見はなかなか出にくく、かつリモートワークで打ち合わせの時間も充分取れない状況でした。そこで、バックキャスト方式で理想像を設定し、デジタル上のホワイトボードで課題点を書き出し付箋で問題点や解決案を出し協議を進めていくプロセスを提案しました。現在進行形ですが、チームメンバーの協力のおかげで幾つか問題解決し業務改善に至りました。加えて業務内容をデータベース化し、業務フローの共有やマルチタスク化に貢献できました。今後は他部門のデータベースと連携して書類作成の自動化を目論んでいます。

今後は職場で推奨している資格取得に邁進していきます。とはいえ学ぶことで得られる喜びを実感している中での卒業となりましたので、目前の定年後に再入学したいと考えています。同窓会へ入会し、イベントや活動を通じて新しい体験と出会いができる事を楽しみにしています。

皆さま、どうぞ宜しくお願いいたします。

名誉学生の言葉

学びの海は涯^{はて}しなし

澤村雅嗣



私は 2002 年に放送大学に入学し、今年で在籍 23 年になります。人生の第二ステージで放送大学に入り本当によかったと思っております。放送大学では仕事では知り得ない多様な世界を学ぶことがで

きました。また、サークル活動を通じていろいろな人生経験を持った人たちと知り合い、交流することが出来ました。このことは私の第二の人生で貴重な体験となりました。

ところが 15 年ほど前、持病の緑内障が悪化して、試験の時、試験問題の判読が難しくなりました。これで放送大学での学びも終わりと思い、事務局と相談したところ、事務局から放送大学には弱視者のための特別措置があるのでそれを受けるよう勧められました。特別措置とは個室で試験官立ち会いのもと、拡大した試験問題で受ける制度です。この措置のお陰で今日まで学びを続けることが出来ました。そしてこの 3 月、6 コースを卒業し名誉学生の称号をいただくことになりました。放送大学は身障者に対する配慮が行き届いた大学です。

2020 年春、コロナ禍で学習センターは全面閉鎖となり、サークル活動も中止されました。巣ごもり状態の日常をいかに過ごしたらよいのか、日々思案しました。その折思い起こしたのが以前放送大学で学んだ「レジリエンスの諸相」でした。レジリエンスとは突然の災害や困難に遭遇した際の対応能力、しなやかな精神力を意味する概念です。私はこのレジリエンスの精神に学び、コロナ禍を天与の時と思い定めて、これまで書こう書こうと思いつつ果たせずに来た自分史を書くことにしました。既に傘寿を過ぎていて記憶力は低下しており、難儀しましたが一年有余かけてなんとか書き上げることが出来ました。

唐の詩人、韓愈に「学海無涯」(学びの海は涯しなし)という詩がありますが、私はこれからも放送大学という学びの船に乗って航海を続けて行きたいと思っております。

名誉学生の言葉

放送大学で過ごした生涯学習

石田清一



私は平成 21 年 4 月に放送大学に入学し、今年の令和 7 年 3 月をもって全コース卒業となりました。この間、諸先生・学友・学友会・学習センターの皆様には 16 年間に亘ってお世話になり、厚く御礼申し上げます。

とても楽しく有意義な学校生活を送らせていただきました。

ただ、コロナ蔓延と云う大事象を挟んで世情が大きく変わりました。例えば、コロナ以前の学校生活は活気に満ち、その状況は勉学状況・学園祭に強く表れていました。特に学園祭は学生の参加者が多く活気に満ちており、“これぞ学園祭”という場を強く表していました。

コロナ禍以後は、学園祭が中止となった年度もあり開催されても参加者は確実に減少しており、コロナ禍以前と異なり弱々しい雰囲気となりました。関係者のお気持ちをお察し申し上げると共に、ご苦勞に対し厚く御礼申し上げます。また学内談話室の諸設備も、以前に比して縮小されるなど異なった懇談の場となりました。コロナ禍の影響は学業にも及び、リモート勉学の普及と云う言葉のみでは表せないほどの閑散さをもたらしました。今後の復活に期待を致すところであります。

さて、私個人の勉学の様子を考えてみると、入学当時の「人間と文化」コースでは、二葉亭四迷の「浮雲」の解析(島内裕子師ご指導)、「社会と産業」コースでは、人間の古代からの生活を取り上げた研究を卒業研究としてまとめるなど、意欲・活気に満ちていました。その後の「自然と環境」コース以降も、学ぶ楽しさを持続して、全コースを卒業することが出来、このたび名誉学生となることが出来ました。

私の信条は、日常を楽しく、目標に向かって前進することです。お蔭様で精神的・健康的に充実した日々が過ごせました。今後は、大学院修士選科生として頑張る 95 歳の勉学老人となる予定です。皆様のご健康とご健闘を祈念しつつ、卒業のご挨拶と致します。

会員投稿

台湾少年工

永井藤樹



2022年(令和4年)10月29日、記念艦三笠の講堂で台湾少年工の講演がありました。講演のお知らせをくださったのは同窓会員であり横須賀市で観光ボランティアをなさっている藤本 勲さんです。濱田嘉昭

先生と同窓会役員の澤村雅嗣さん、学生の小川眞一さんと私の4人で参加しました。

台湾からは92歳になられた元少年工の東俊賢氏が来日され「空技廠と台湾少年工」というテーマでお話されました。1943年(昭和18年)、当時氏は13歳の中学生でしたが8400人余の少年と共に志願し選抜されて日本へやって来ました。少年たちを引率し指導されたお一人に、小川三郎海軍中尉がおられます。小川眞一さんの御父上です。

大和市と座間市・綾瀬市(旧高座郡)にまたがる「高座海軍工廠」で戦闘機「雷電」を製造していましたが、飛行機の生産ラインから日本の熟練工が次々と徴兵されていく中で、日本語教育を受けた優秀で向学心の富んだ台湾少年工にそれを補うことが期待されたのです。工廠の工員の約半数が少年工でした。暖かな台湾から来た彼らを待ち構えていたのは冬の厳しい高座での生活で、ヒビやアカギレの手は膿を持ち、ノミ、シラミに就寝を妨げられた過酷な現実でしたが、そんな環境下での厳しい労働に耐え抜けたのは「選ばれし者」という誇りと自負心があつたと話されました。爆撃下の恐怖の中でも強い愛国心と技術を持って勇敢にそして誠実に闘い、高い評価を受けています。不幸にも25名の少年工が空襲や怪我・病気で亡くなっています。

少年工を写した数多くある写真の一枚に、小さな身体に戦闘帽をかぶり上半身裸であれば骨が浮き出てまだ幼さが残る少年が片膝をつき、エアーハンマーを操作してひたむきにリベットを打ち込んでいる写真がひとときわ印象に残りました。

食べ盛りの少年たちのひもじさを支えたのは高座の地の心優しい農家の人々で、芋やおにぎりをふるまい破れた衣類を繕い、家族同様に可

愛がってくれたと話されました。そのことが彼らをして日本を心の祖国とし、高座を第二の故郷としています。

敗戦とともに工廠の管理から放り出されて空腹に耐えかね、生活に窮し農家に無理強いした事件もあったものの自ら自治会を組織し、帰台の船の交渉をしています。十代半ばという若さの少年たちの逞しい行動力に驚きます。

日本で3年間学び2年働けば旧制中学の資格が与えられ、中学卒であれば2年間の就労後、高等工業高校卒業の資格が得られ、将来は航空機技師の道が約束されていましたが、敗戦とともにそれらすべてが反故になりました。しかし、帰台後は工廠で学んだ技術力を生かし台湾の経済発展に貢献しています。

東俊賢氏はその後、日本の専門学校に留学し「立華電子」を設立され、600名の従業員を雇用する経営者になっています。



台湾少年工も90歳を超えた高齢者となりましたが「台湾高座同学聯誼(れんぎ)会」を結成し、日本側でも「日台高座友の会」を設立し、子・孫の代までも友好の継続を誓い合っています。

私は2012年に、天川晃先生のゼミの一員として台湾の「空中大学」を訪問したときに熱烈な歓迎を受け、台湾の人々の強く熱い親日の情(こころ)を忘れることが出来ません。

2011年の「東日本大震災」では外国から寄せられた義援金の中で台湾からは200億円と突出して高額な義金が寄せられました。台湾の人達の親日感情は想像以上です。同窓会のみならずにも神奈川県と「台湾少年工」との深い絆の歴史を記憶し、日台親善を願うとともに、台湾の置かれた国際的立場に思いを馳せて頂きたいと思います。

【第76回弘明寺サロン講演会】

写真で見た幕末・明治維新の江戸・東京

2025年2月15日、当金彦宏氏を講師にお迎えして弘明寺サロンを開催しました。参加者は23名でした。

講師の発案で、講演開始前に20分ほどの「古地図で歩く江戸ミニツアー」も実施しました。安政3年(1856年)発行の江戸古地図を講師が2.5m×1.5mの大きさの1枚にしたものを広げ、古地図を囲みながら、江戸城を中心とした江戸の街を説明していただきました。地図から分かるものは地名や街道、寺社建物の位置関係だけではなく、江戸の生活や治安までもが見えてきます。講演終了後にも、古地図の周りで講師に質問する参加者の姿が見られました。

江戸の地はもともと湿地帯でしたが、順次埋め立てて街を造り、真水を確保するための上水道工事も行い、都市計画に従って高い技術で作られた人工の都市として発展・拡大しました。

幕末から明治維新にかけて多数の外国人が来日し、制約された環境の中でも多くの写真を撮影して日本の様子を書き留めました。寺社や風景ばかりではなく人々の日常の様子もあり、日本人にとっては見慣れた景色・文化でも外国人にとっては珍しく、海外でも興味を持たれて新聞等で紹介されました。

明治維新の混乱の中で焼失したり廃仏毀釈で破壊されたりした寺が多くあり、その後も文明開化によって東京となった江戸は開発されていきました。現在ではもう見ることをできない江戸の姿が、写真や記録の中にはあります。

終わりに、講師は次の3点を挙げられました。

1. 江戸は、東京の昔である。
2. 幕府の土地遺産が、近代日本国家建設の礎となった。
3. 写真は、被写体についての存在証明である。

(安達美帆子)



古地図で歩く江戸ミニツアー

【第77回弘明寺サロン講演会】

世界最高峰トレイルランニングレース
UTMBに夫婦で挑戦

2025年5月24日、神奈川同窓会通常総会終了後に表記の講演会が開催されました。講師は現在も在学中の学生であると同時に放送大学神奈川合唱団を率いる団長でもあり、日本語教師など多方面で活躍している岸信男氏です。

音楽の持つ優雅で柔軟な面とトレイルランニングという厳しい屈強な面を併せ持たれていることに感銘を受けました。合唱団からの多数の応援を得て講演会の参加者は43名でした。表題のUTMBとは「ウルトラトレイルデュモンブラン」の略で、モンブラン(フランス、イタリアの国境上に位置)の周囲を一周するレースだそうです。

このUTMBを走することはランナーにとっては聖地を走ることであり、参加するためには指定されたレースでポイントを取得しなければならないとのことで日本各地はもとより多数の海外トレランレースに参加(常にご夫婦で)されていたことにも驚きました。

動画で紹介されたUTMBレースのスタート地点フランスのシャモニーは2000人以上の世界からの参加者で圧巻のスタート風景でした。約170km、累積標高差約10,000m、制限時間46時間30分、未舗装の登山道、山道、岩場など過酷な道を走り続け岸さんは仮眠もとらず46時間22分、制限時間8分前にシャモニーにゴールされ見事完走されました。完走に際して奥様のアシストの様子も素晴らしく夫婦愛をも感じるトレイルランニングでした。

(万場由美子)



【年末特別講演会】

鉄を巡る世界(歴史)から考える工学

神奈川同窓会は2024年12月21日、放送大学客員教授であり横浜国立大学教授であられる梅澤 修先生をお招きし「鉄を巡る世界(歴史)から考える工学」と題して、神奈川学習センター第3講義室とZoomによるオンライン参加のハイブリッド型で年末特別講演会を開催しました。会場には26名、Zoom オンラインでは2名の合計28名が参加されました。

梅澤先生の講演概要

現在の大学教育では、履修内容の拡大や専門分野の高度化の影響もあり、教養科目が縮小傾向にある。しかし、知識を紡ぎ、経験を重ねて幅広い教養を身に着け学問の世界を探究する本質は、変わらないと信じている。



この講演では、ヨーロッパにおける鉄を理解するための科学及び技術の発展の歴史を紹介しつつ、現代の工業化社会を支える鉄器文明と金属組織学の発展について考えてみる。また、人類特有の能力: Engineering (工学) の活用には Science の理解が不可欠であることを学ぶ。

1, 海外留学から学んだ事

私は就職してから20代はアメリカ、30代はイギリスへ留学した。この時、コミュニケーション能力がとても大切だと思った。アメリカの大学教授は講義資格のある教授が平易な英語で分かりやすく、講義をしてくれる。イギリスや欧州は異民族が国境を接しており、お互いにコミュニケーションが大切である。何をどう話すべきか、相手を理解する為に様々な教養を深め歴史を勉強する。知識基盤社会の中核となる人材には「課題の持つ本質的な問題点や解決法を見出す能力、それを他者に伝えるコミュニケーション能力の獲得」が求められる。それには知識を紡ぐこと

が大切。現代日本の教育に著しく欠けている。今回の講演理解の一助として ①『銃・病原菌・鉄』ジャレド・ダイヤモンド(著) 倉骨 彰(翻訳) 草思社 ②『ローマ人の物語』塩野七生(著) 新潮社の購読を勧める。

2, 鉄との遭遇、製鉄法の発展の歴史

ユーラシア、地中海諸国が他の文明を亡ぼし、産業革命で世界を変えたのは、この地域での製鉄技術の発展による社会の高度文明化が寄与している。古代の製鉄法、近代製鉄法の発展の歴史を学び様々な科学技術が製鉄の発展に尽くした。

3, 金属組織学の発展

ドイツ人アドルフ・マーチンが1878年論文「鉄の顕微鏡調査」を発表。顕微鏡による結晶構造解析研究が進歩した。鉄は電子配置、温度、結晶構造、様々な化合物などでその特性が著しく変化する。

鉄の変態を研究することにより、鋼鉄材料・金属組織の理解、関連する物理・化学との連携、材料試験による評価が急速に進展した。それにより社会が要求する様々な用途に鉄の果たす役割が多いことを学んだ。

4, 巨大大事故の頻発と現代の技術

科学技術が進歩したのに、なぜ大事故が多発するのか? コメット機墜落からスペースシャトル事故までの事故例を見ると、使用材料の疲労破壊が多い。部品の信頼性と経済性を評価関数パラメータとする伝統的なシステム工学における手法の限界は、歴史が証明している。

このような巨大大事故を繰り返して発生させないために、事故例の分析に全てを依存しない新しい技術開発が必要である。(木村多一)



社会貢献活動のお知らせ

寄付による活動、経験やスキルを活かす活動、個人でできる活動の3つの柱を立てて今年度から社会貢献活動を展開します。

第1の柱は発足時より取り組んでいる「就学困難児対策プラン寄付活動」です。「社会貢献活動(プラン)」から名称変更しましたが内容は従来通りです。公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンを通して、就学困難児の成長と就学環境を整える寄付を呼びかけ(写真は支援中のフィリピンの男の子 Lebron-Jay 9歳です)。

昨年度は197名の方から376,100円の寄付を頂き、前期後期で6名分計360,000円を寄付しました。本当にありがとうございます。本年もご寄付参画をお願いします。



第2の柱は「経験やスキルを活かす地域貢献対策活動」、第3の柱は「個人でできる気候変動対策活動」です。今年度から第1の柱を含めて根幹を支える「こころの活動」を始めます。

具体的には「波濤 Web」の「私をたたえる・あなたをたたえる—今月の社会貢献活動のお知らせ」ページで、皆さんから「今月こんな社会貢献をしました・今の気持ち」と「投稿を見ました・感じた私の気持ち」を投稿し合う活動にしたいと思っています。

朝日新聞の「天声人語(2013/7/14)」に「キョウイクとキョウヨウ」の話がありましたね。キョウイクは「今日も行くところがある」ことで「居場所があること」、キョウヨウは「今日も用事がある」ことで「出番がある」ことだそうです(全国町村会「コラム大森彌」2014/2/3より)。

投稿活動は『波濤 Web』にて簡単にできます。あなたの「居場所」も「出番」もあります。仲間とつながりましょう！
(田代和嘉)

事務局だより

《新入会者ご紹介》

2025年1月9日発行の『波濤』68号掲載以降の新入会員は下記の通り10名の方々です。(敬称略)心より歓迎申し上げます。

佐野 敦子	瀬尾 健一	行森 登
岡野由紀子	木下 恵	佐藤美和子
石田 清一	柏木 久子	山本 喜代
石崎 周子		

《お願い》

住居移転のあった方や、Mail アドレスを変更された方は、次のいずれかの方法でご連絡をお願いいたします。

- ① 放送大学神奈川同窓会のホームページから。
「入会案内」をクリックし「申し込みフォーム」に、変更後の住所またはメールアドレスを記入し、連絡事項にその旨記入して送信。
- ② メールの方は下記アドレスへ。
E-Mail:0025457082@campus.ouj.ac.jp 木下 義則
- ③ ハガキの方は下記住所へ。
〒232-0061 横浜市南区大岡2丁目31—1
放送大学神奈川学習センター内
神奈川同窓会 木下 義則

「名誉学生」のお知らせ

令和6年度は神奈川学習センター所属の11名の方が「放送大学名誉学生」の称号を取得されました。おめでとうございます。

訃 報

清水利光様

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

今号には神奈川学習センターの大谷所長より、「大学で学ぶということ」と題して寄稿いただきました。また名誉学生になられた澤村雅嗣様、石田清一様にも寄稿いただきましたが、お二人とも勉強はまだ続けられるようです。
(佐藤 敬)